



2023年 新年号 ものづくり通信

第172号

大阪府ものづくり振興協会

大阪市中央区本町橋2番5号マイドームおおさか6階

電話・06-4792-7897



2023年 年頭所感

会長 竹内 陽浩



新年あけましておめでとうございます
卯年がスタートしました。

日本で「新型コロナウイルス」が発生して、3年が経過しました。

「コロナ第8波」といわれる現在、感染者数は増加意傾向にありますが、7回の感染拡大を経る中で日常生活や経済活動における感染防止の取組み、科学的知見の積み重ね、医療体制に関わる政府・自治体の取組みなど、国全体の対応力の強化により、行動制限を行うことなく、感染対策と経済活動の両立が継続されてきました。

世界においては、多くのリスクが顕在化しています。

ロシア侵攻によるウクライナとの戦争の長期化は世界経済に資源・食料の供給不足・物価上昇を引き起こし、中国では主要都市でのロックダウンの実施により、内需の柱である消費全体の落ち込みによる経済失速など、

2023年度もさまざまな要素による世界の不確実性は増し、先行き不透明な情勢は継続されると考えられます。日本経済においては、コロナの感染状況や円安・物価高騰などに左右されつつも持ち直し傾向にあるといえます。感染の波は今後も増減を繰り返す可能性はありますが「ウイズコロナ」を基本とした経済活性化に早急に取り組むべく、本格的始動の1年としていかなければなりません。

コロナ禍は、私たちの消費価値観や生活行動を変化させ、新たな需要を生み出しました。

今消費者には、オンライン化、デジタル化による無駄の省かれたニューノーマル（新常態）な生活様式が根付こうとしています。ニューノーマル、あたらしい日常という意味は「変化の前には戻らない」というニュアンスを含み、変化に対応できなければ時代に取り残されるという警告の意味もあります

「人に見せる」ことから「自分自身の感覚を尊重」へと消費者志向は変化してきました。

同時に環境汚染に対する認識度も高まり、サステナビリティ（持続可能なマーケティング）が顕著な広がりを見せ、これからの「ものづくり」の重要なキーワードになります。

私達は、「ものづくりメーカー」として、環境に配慮したものづくりを強化することはもちろん新しい生活様式に対応できるよう、機能性や心地よさに配慮した製品の提案に真摯に取り組んでいかなければなりません。

ものづくりを生業とする、私たちは、ニューノーマル時代における「消費行動」に注視し、「強みにするのは何か」どのような事業戦略で臨むのかを、業種を超えて語り合うことが今こそ重要ではないでしょうか。

大阪府ものづくり振興協会には「機械・金属部会」「繊維・ファッション部会」「生活・化学部会」があり、業種の枠を超えて交流連携を深めながら、販路開拓にチャレンジできる異業種で組織されています。

「ものづくり」のベースにあるのは徹底した消費者目線です

新しい年を迎えるにあたり、協会の原点に立ち戻り、異業種のメリットを活かした価値創造や革新的な発想を、ものづくりに反映させた、製品の提案に真摯に取り組んでいきたいと存じています。

「新型コロナ」は今までの「価値観」を一変させましたが、私達の行動を見直す機会、考える時間を与えられた転換点と捉え、新年への希望と結んでいかなければなりません。

2023年度も厳しい困難な状況が予想されます。

「アフターコロナ」「ポストコロナ」を見据えながら、「今私達ができること」「取り組まなければならないこと」など、会員の皆様と考えながら、この難局に臨んでいきたいと存じています。

会員の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

本年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



2023年 年頭所感

近畿経済産業局長 伊吹 英明



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の関西経済は、新型コロナウイルス感染症が落ち着き始め、回復の兆しが見えた1年となりました。国内の需要喚起策の実施や水際対策の緩和により人の流れが戻りつつあり、コロナ前の水準までとはいかないものの個人消費の回復が見られました。また、円安による輸出産業の収益改善などのプラスの動きも見られました。一方で、国際情勢の影響による原材料価格やエネルギー価格の高騰、急激な為替の変動により物価高騰に拍車がかかるなど不安定な状況が続きました。

先行きについて依然として不透明な要素はあるものの、GX・DX等の社会課題の解決による新たな需要の創出や、それに伴う国内設備投資の拡大など、前向きな動きや更なる賃上げも期待されます。また、2025年大阪・関西万博の開催に向けて、今年はパビリオン建設やチケット販売などが始まり、具体的な形が見えてくる一年になります。これらの動向を踏まえ、近畿経済産業局では、以下の3つのキーワードのもと、様々な取組を行っていきます

1つ目は「中堅・中小企業の支援」です。本年はコロナ禍から脱却し、企業が成長するための足固めとなる1年です。これまでにコロナ対策として融資を受けている多くの企業への資金繰り支援を引き続き実施するとともに、当局が昨年策定した経営分析ツール「ローカルベンチマーク Act」の活用など、金融機関等と連携し、企業の財務体質や収益力強化に向けて支援していきます。また、昨今の電気やガス料金、原材料費等の価格高騰については、政府としてエネルギーの安定供給の確保や激変緩和対策に努めるとともに、取引適正化を後押しし、企業が収益を改善し賃上げしやすい環境をつくっていきます。

さらに、サプライチェーンの強靱化や、中堅・中小企業が取り組む事業再構築を進めるとともに、円安をチャンスと捉え、中小企業の輸出促進や海外展開を支援していきます。

2つ目が「中長期的な成長基盤の構築」です。中長期的な成長を図るべき分野の1つに環境・エネルギー分野があげられますが、2050年のカーボンニュートラル社会の実現に向けて、中小企業の多くはカーボンニュートラルが今後の自社の経営に影響を及ぼすと感じつつも具体的な方策まで至っていないのが現状です。そこで、当局では関係機関と連携し、普及啓発や、省エネ相談窓口での相談など、企業の取組状況に応じた支援を行っていきます。また、革新的な技術の開発についても、企業の積極的な投資を後押ししていきます。

カーボンニュートラルの実現に向けて重要な蓄電池は、今後世界的な市場拡大が予測されており、国内外での製造基盤の強化が求められます。それに伴うサプライチェーン全体での人材不足に対応するため、蓄電池の製造品出荷額の全国シェアの三分の一を占める関西地域において、昨年、関西蓄電池人材育成等コンソーシアムを発足させました。本年も引き続き産学官の連携により、産業界のニーズに即した人材を育成・確保するための取組を進めてまいります。

また、関西に産業集積があり大規模プロジェクトが進められている水素についても、ビジネスマッチング等を通じた中小企業の新規参入促進を進めていきます。

さらに、ライフサイエンスやバイオものづくり、DXなど、今後の成長が期待される分野において、スタートアップによるイノベーション創出が期待されています。当局では、関西発の有望なスタートアップを「J-Startup KANSAI 企業」として選定し、公的機関と民間企業が連携して集中支援を行うなど、関西でスタートアップが成長できる環境整備に取り組んでいきます。

3つ目は「大阪・関西万博」です。大阪・関西万博については、すでにパビリオン展示のコンセプト等も発表され、具体的な万博参加に向けたフェーズに入ってきます。さらには、万博に向けてインバウンドの回復が見込まれる中、当局では、地域の産業、歴史文化、食などの魅力を国内外に広く発信し、関西各地への誘客を促進する取組を地域とともに進めていきます。

関西では、ものづくり中小企業が地域で一丸となって、生産現場を見て体験してもらおうオープンファクトリーの動きが盛んになっています。また、企業や産地組合、自治体が一体となって地域資源のブランド化を目指す取組も各地で次々に行われています。当局ではこうした各地の取組を繋ぎ、関西全体としての魅力を高めてまいります。

以上の3つのキーワードを柱に、関西経済の成長に向けて当局職員が一丸となって取り組んでまいります。

結びに、経済産業行政への御理解と御協力をお願いするとともに、皆様の御多幸と御健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。



令和5(2023)年 年頭所感

大阪府知事

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、長引くコロナ禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻が世界に衝撃を与え、その後のエネルギー危機や物価高騰などが私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。本府では、府民の命と暮らしを守ることを最大の使命として、感染症対策や物価高騰対策を切れ目なく実施し、府民や事業者の皆様とともに困難に立ち向かってきました。一方で、大阪・関西万博の開幕1,000日前イベントや、3年ぶりの御堂筋オータムパーティー、さらには、26年ぶりに日本一に輝いたオリックス・バファローズの優勝パレードが行われるなど、大阪の街にもにぎわいが戻ってきた1年でした。

2023年は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰への対策を着実に進めるとともに、大阪府・大阪市が連携して取り組んできた成長戦略、まちづくりについて、万博をインパクトとして、これまで以上に府市一体となって大阪が成長・飛躍する土台づくりを進めていきます。

全国的に、コロナの感染者が増加しています。発熱外来の強化をはじめ、重症化リスクの高い高齢者や小児への治療・療養体制の充実など、オール医療提供体制の確立を進めていきます。インフルエンザとの同時流行に備えながら、感染症対策に万全を期すとともに、府民の皆様には、感染防止対策の徹底はもちろんのこと、早期のワクチン接種、検査キットや常備薬の準備をお願いします。

また、40年ぶりの急激な物価高騰を踏まえ、食費負担が大きい子育て世帯を支援するため、お米等の食料を配付します。さらに、コロナ禍で孤独・孤立の問題が顕在化していることを受け、ひきこもりやヤングケアラーなどに対して、行政や民間支援機関などオール大阪の体制で取り組んでいきます。暮らしを支えるセーフティネットを充実させながら、感染症対策と社会経済活動の維持を両立する「ウイズコロナ」を実現していきます。

大阪・関西万博の開催まであと2年余りとなり、いよいよ会場建設工事が本格化します。国や博覧会協会、経済界、府市が一体となって準備を加速させ、確実に万博の成功につなげます。地元パビリオンである「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn」では、最先端の再生医療技術（iPS細胞）を活用した『生きる心臓モデル』の展示に向けて取り組んでいます。未来を担う子どもたちをはじめ、訪れた人々が「いのち」や「健康」、近未来の暮らしを感じ、ワクワクする展示を行い、大阪のポテンシャルを世界に示す万博にしていきます。

また、10月にはG7貿易大臣会合が大阪・堺で開催されます。万博への弾みとするとともに、世界遺産である「百舌鳥・古市古墳群」や大阪産（もん）など、大阪・堺の魅力を世界に発信していきます。

2025年をターゲットイヤーに、万博という大きなチャンスを最大限に活かし、新たな価値を創出することで、大阪の成長に着実につなげます。「my iPSプロジェクト」など、大阪・関西で取り組まれている最先端の医療技術を万博で発信・披露するとともに、再生医療の産業化等をめざす未来医療国際拠点の形成を進めます。次世代モビリティである空飛ぶクルマは、万博会場を中心とした商用運航の実現に向けて、実証実験などでの準備を重ねます。さらに、カーボンニュートラルの実現に向けた次世代蓄電池や水素の技術開発・実証や府民の暮らしを便利にするデジタル改革など、先進的な取組みを重点的に進めます。

さらに、万博後の大阪・関西の成長エンジンが、IRと国際金融都市の実現です。IRは、国による区域整備計画の認定を得られれば、いよいよ開業に向けて動き出します。国際金融都市の実現に向けては、昨年12月に英国で投資家等に向けたプロモーション活動を行いました。世界からの投資を大阪に呼び込み、金融の力で大阪の成長を加速させていきます。

大阪の成長・発展には、その基盤となる都市インフラが不可欠です。万博にあわせてさまざまなプロジェクトが進行しています。淀川左岸線、なにわ筋線、大阪モノレールや北大阪急行の延伸などのインフラ整備や、3月に新駅開業を迎えるうめきた2期をはじめ、新大阪駅周辺地域や大阪城東部地区などの拠点開発を着実に進めていきます。また、昨年策定した、大阪全体のまちづくりの方向性を示す新しいグランドデザインをもとに、市町村とも協力しながら、官民一体となって取り組みます。

コロナや物価高騰など、依然として、私たちはさまざまな課題に直面していますが、2年後の万博を千載一遇のチャンスととらえ、皆様とともにこの危機を乗り越え、大阪の成長を実現し、世界の課題解決に貢献する国際都市・大阪をめざします。

府市がより一層連携を強化することで、東西二極の一極として日本の成長をけん引し、豊かで利便性の高い暮らしを実感できる「副首都・大阪」の確立をめざします。

本年も、府民の皆様により一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げますとともに、皆様にとって素晴らしい年となりますようお祈りいたします

第3回運営委員会

11月29日（火）産業創造館において開催しました。議題は以下のとおりです。

【議事概要】

(1) 新年交流会について

- ・開催方法：着席、パーテーション設置、黙食。
- ・国家栄転者招待について：団体役員長歴の方を招待する。

(2) 菓の幹旋事業について

- ・多くの方に利用してもらうため「2,000円以上購入の方に600円補助する」方法で行ってみる。

(3) 総会について

- ・ヴィアーレ大阪が閉館されるため、「ニュー大阪ホテル（新大阪）」にて行う。

令和5年6月13日（火）予定

(4) 今後の活動について

- ・工場見学会 ⇒ 感染対策により次年度に繰り越します。

新年交流会 1月17日（火）

- ・日時：令和4年1月17日（火）17時から
- ・場 所：ヴィアーレ大阪
- ・会費 12,000円 是非、ご参加下さい。

- * ご来場の際は検温、手指のアルコール消毒及びマスクの着用にご協力を願います。
今回は交流会のみとし、パーテーション設置、着席にて飲食中は黙食、立ち歩かないなど感染拡大防止へのご配慮をお願い申し上げます。

協会だより



【移転】

日本毛布工業組合：〒595-0025 泉大津市旭町 22-45 テクスピア大阪3F

事務局より

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

年末年始もあつという間に終わり、年末に3年ぶりに姪孫（てっそん：弟の孫）も含めて5名が帰省して、総勢8名でバタバタと過ごしていました。今年は活動ができるよう企画をしていきたいと思っております。

- *新年交流会は感染対策を万全にし、お会い出来ることを楽しみにしております。
皆様体調にはくれぐれも、ご自愛ください。